相生町の社寺建築

社寺建築班（郷土建築研究会）
尾方　洋子[1)]・黒崎　仁資[2)]・坂口　敏司[3)]
富田　眞二[4)]・中野　真弘[5)]・原田　知子[6)]
松永　佳史[7)]・森兼　三郎[8)]・龍野　文男[9)]

1．はじめに

相生町は県南中央部に位置し、那賀川の中流にあり、北に四国山地、南に海部山脈が東西に連なる盆地状の平地を中心に集落が構成されている。旧相生村、旧延野村、旧日野谷村が合併し現在の相生町となった。

私たち社寺建築班は７月26日から町内に入り、社寺建築を建築学的見地から調査した。

神社は26カ所を、寺院は７カ所、お堂は７カ所を調査し（図13）、それぞれの建築様式や構造などを一覧表（表１、２）にまとめた。そのうち価値が高いと考えられるものは、「３．相生町の社寺建築」で紹介する。

神社では、組物（くみもの）や彫刻（ちょうこく）など様式の特徴を見出すことができ、また農村舞台（のうそんぶたい）（図１）の残存状況の確認などに成果をみた。寺院では、正光寺仁王門（しょうこうじにおうもん）、観音堂（かんのんどう）の調査、またお堂建築の特徴や棟札（むなふだ）の確認ができ成果をみた。以下、その内容について報告する。

図１　八面神社（西納）の農村舞台　町内で最大規模の農村舞台

1）尾方建材　2）黒崎建設　3）坂口建築設計室　4）富田建築設計室
5）真建築都市研究室　6）穴吹カレッジ　7）Y．M．設計室
8）A＋U森兼設計室　9）龍野建築設計事務所

2．相生町の社寺建築概要

1）神社建築の概要

神社は26社を調査し、社殿の建築様式や建立年代などを一覧表にまとめた（表1）。その中で、建築年代については、江戸後期の文政年間（1818～30）の建立のものが朝生の八幡神社本殿、平野の辺川神社本殿の2社、江戸末期のものが鉢の龍王神社、雄の新田神社、花瀬の龍王神社、段所の和田都美神社、簗ノ上の八幡神社、馬路の八幡神社の6社が文献やその様式などから考えられ、近世にさかのぼるものは、8社である。その他は、明治以後の近代及び現代に改築されたものである。

本殿の建築様式は、小社殿を除きすべて流造であった。規模は、延野の王子神社が唯一の三間社、請ノ谷の八幡神社（天神社）、鮎川の大宮八幡神社の2社が二間社であった、その他はすべて一間社であった。

細部の特徴として、那賀川流域に多く見られる、四方八方に手先の出る組物を持ったものが、平野の辺川神社、花瀬の龍王神社（図2）、雄の新田神社、大久保の蛭子神社（図3）、と4社に見られた。それぞれの建築年代は異なっており、文政年間の辺川神社に始まり、幕末、明治と、この組物が受け継がれてきたことがわかる。また、中備彫刻などの波や雲を表現した彫刻の部分は丸みを持たせたものが多く見られるが、角張った荒々しい氷状に彫刻されたものが8社において見られた。この2点が相生町の神社建築の大きな特徴といえる。

那賀川流域においては、多くの神社の境内に農村舞台が建てられ人形芝居の興業が盛んに行われた。近年、人形芝居の衰退とともに集会所に建て替えられたものが多くあり、同じ那賀川流域では木沢村の「坂州の農村舞台」が国指定重要民俗文化財に指定されるなど徳島の民衆文化を伝えるものとして貴重なものとなってきた。相生町においては、阿波のまちなみ研究会発行の「阿波の農村舞台」に7社の舞台が紹介されているが、そのうち今回6社の残存が確認できた（1社は、未調査）。

図2　花瀬の龍王神社の妻飾

図3　大久保の蛭子神社の妻飾

2）寺院建築の概要

寺院は7カ寺を、お堂は7カ所を調査し、建物の建築様式や建立年代などを一覧表にまとめた（表2）。寺院の建立年代で江戸中期のものは、正光寺の観音堂、仁王門、延命寺千体地蔵堂（図4）の3棟、江戸後期のものは、萬福寺鐘楼（図6）の1棟であった。その他は全て近代及び現代の建立であった。この中でも、正光寺の観音堂は内部の壁、天井に絵画が描かれた質の高いもので、また仁王門は、2階部分に鐘楼を置いた鐘楼門で県下でも珍しく、建立年代の古さも相まって貴重な建物である。千体地蔵堂は、建立年代からは貴重なものと考えられるが近年の外壁補修により当初の姿と異質なものとなっている。また、萬福寺地蔵堂は、寛政11年（1799）建立のものが『徳島県の近世社寺建築』に紹介されているが、現在は木鼻や手挟など彫刻を施した部材（図7）を再使用し改築されている。

お堂は、時間的な制約もあり移動中に出会ったもののみ調査を行った。この中で榎谷の地蔵堂（百嘉堂）（図5）は、棟札から江戸中期の元文4年（1739）の建立であることが確認でき、7カ所のうち最も古い建物であった。建築様式は、徳島県では、四国山地の南斜面と北斜面で特徴が分かれており、南斜面側は、閉鎖型のものが多く、北斜面側では開放型のものが多く存在する。今回調査を行ったものは、全てが閉鎖型であった。また、屋根形状が妻入りの片入母屋造が多く見受けられた。規模は三間×二間、二間×二間（一間は柱間の寸法にとらわれず、数を表す）と奥行きが全て二間であった。この3点が相生町におけるお堂建築の特色といえる。

図4　延命寺千体地蔵堂

図5　榎谷の地蔵堂（百嘉堂）

図6　萬福寺鐘楼と地蔵堂

図7　萬福寺地蔵堂の彫刻

表１　神社建築調査一覧表

神　社　名	鎮　座　地	創　　建	祭　　神	旧社格
1　八面神社 やつら	西納字かくれごや75	不詳 元禄13年（1700）再建の棟札を存す。＊３	高皇産霊神　神皇産霊神 生産霊神　大宮能売神 事代主神　大御膳神 玉留産霊神　足産霊神	旧村社
2　八幡神社（天神社） はちまん	請ノ谷字岡田９	不詳 『阿波誌』『寛保改神社帳』に記述あり＊３	品陀別命　息長帯比売命 大雀命天神	旧村社
3　白人神社 しらひと	井ノ谷字蔭117	不詳	鎮西八郎為朝公 町誌：邇邇芸命	旧村社
4　辺川神社 へがわ	平野字岡田１	不詳 万治２年（1659）再建の棟札を存す。＊３	天鈿女命 町誌：天臼女命	旧村社
5　鹿島神社 かしま	榎谷字東野73	不詳 『阿波誌』に記述あり＊３	鹿島大神 町誌：建御雷命	旧村社
6　八幡神社 やわた	馬路字桑内78	不詳 『阿波誌』『寛保改神社帳』に記述あり＊３	品陀別命　息長帯比売命　大雀命 町誌：品陀和気命 息長帯比売命　大雀命	旧村社
7　八幡神社（蔭の宮） やわた	谷内字中分32	宝治元年（1247） 相殿の人丸大神は、人丸神社を合祀＊３	品陀別命　息長帯比売命 大雀命 （相殿）人丸大神	旧村社
8　八幡神社 はちまん	朝生字川西235	不詳　大永５年（1525）造立の棟札を存す。 文政５年聖護法善神社、他２社を合祀＊３	品陀和気神　息長帯比売命　大雀命　聖神　須佐之男神	旧村社
9　八幡神社 はちまん	簗の上字西久保40	不詳 宝暦７年（1757）の棟札を存す。 『阿波誌』『寛保改神社帳』に記述あり＊３	品陀別神　息長帯比売命 大雀神	旧無格社 （旧村社）
10　大宮八幡神社 おおみやはちまん	鮎川字西宮９	和銅４年（711）＊３ 養老４年（721）＊１	品陀別命　息長帯比売命	旧村社
11　王子神社 おうじ	延野字王子72	延長４年（926）４月 永録５年（1562）の棟札を所蔵＊３	日本武神 （相殿）蛭子神（天命４年転移） 八幡神	旧村社
12　八坂神社 やさか	延野字北の前61	不詳 寛政年間の本殿屋根葺替の棟札あり＊３	須佐之男神	旧無格社
13　和田都美神社 わたつみ	延野字槙谷58	不詳 享保９年（1724）９月遷宮の棟札あり＊３	豊玉姫神	旧無格社
14　吉野神社 よしの	吉野字森ノ下28	不詳 文明６年（1474）の棟札を存す＊３	少彦名神	旧村社
15　新田神社 にった	雄字岡70	不詳 正徳元年（1711）の棟札を存す＊３	新田義貞公（一説に新田義助公）	旧村社
16　蔵王神社 ざおう	雄字屋敷野87	不詳 寛文元年（1661）建立の棟札あり＊３	和田都美神	旧無格社
17　龍王神社 りゅうおう	鉢字川原畑115	不詳 宝永４年（1707）の棟札あり＊３	豊玉姫神	旧村社
18　蛭子神社 ひるこ	大久保字中山17	永徳３年（1383）＊３ 寛永元年（1624）再建の棟札＊１	蛭子神	旧村社
19　杉尾神社 すぎのお	横石字石原１	不詳 元亀３年（1572）の棟札あり＊３ 永禄９年（1566）再建の棟札＊１	大己貴命（相殿）天照大神 誉田別命　素盞嗚命　迦具土命 大山祇命　事代主命　少彦名命 奥津彦命　大物主命　大津見命	旧村社
20　龍王神社 りゅうおう	朴野字宮ノ西39	不詳 永録７年（1564）再興の棟札あり＊３	豊玉彦命　豊玉媛命	旧村社
21　龍王神社 りゅうおう	花瀬字花瀬285	応永22年（1415）＊３ 応永20年（1413）＊１	豊玉姫命	旧村社
22　杉尾神社	蔭谷字岡１	天正２年（1574）再建の棟札＊１	大己貴命	旧村社
23　若宮神社	神通字神通174	不詳 明治７年再興、昭和41年再建＊２	大雀之命	旧無格社
24　国廻神社	向原	不詳	公の使犬	
25　和霊神社	朴野字西納野59-４	文政年間＊１ 明治８年金比羅大権現を遷座、明治41年合祀＊２	伊予宇和島藩家老山家公頼 大物主命	
26　お鶴大明神	蔭谷字蔭山	不詳	平家の落人で上那賀町古屋谷の奥、谷山の大古屋さんの婦人の説	

＊１：町誌　＊２：日野谷村の歴史　＊３：徳島県神社誌　A：八方向に延びる出組　B：氷状の波が特徴の彫り物

平成12年８月末日現在

鳥居様式(材料)	本殿　建築様式	拝殿　建築様式　向拝	特　記　事　項	A	B	C	D	E
明神(御影) 大正９年 平成５年	木造　一間社流造銅板葺	木造　三間入母屋銅板葺 向拝：大唐破風銅板葺	大正８年合祀の時に改築＊１ 相生町最大の農村舞台			○	○	○
明神(御影) 昭和８年	木造　二間社流造銅板葺 朱塗り	木造　三間切妻銅板葺 向拝：大唐破風銅板葺	拝殿：昭和35年 舞台：明治期＊１			○	○	○
明神(木造)	木造　一間社流造銅板葺	木造　三間入母屋桟瓦葺 向拝：大唐破風桟瓦葺	基壇：明治23年6月奉築の銘(1891年) 昭和９年拝殿改築、遷宮＊１			△	○	
明神(御影) 大正14年	木造　一間社流造銅板葺	木造　三間入母屋銅板葺 向拝：大唐破風銅板葺	文政11年(1828年)の棟札 『徳島県の近世社寺建築』による	○	○	○	○	
無し	木造　一間社流造鉄板葺 折れ屋根	木造　三間片入母屋鉄板葺 向拝：なし	老朽化が著しく、拝殿側に傾き 「明治40年大工馬路村東崎光太郎」の棟札＊１		○	△	○	
台輪(木造)	木造　一間社流造銅板葺	木造　片入母屋桟瓦葺 向拝：なし	基壇：元次元年子の銘 (元治元年であれば1864年)			△	○	
台輪(木造)	木造　一間社流造銅板葺 背面二間	木造　三間切妻銅板葺 向拝：入母屋銅板葺	本殿は、古い部材が混在し、彩色の跡がある部材もある。柱は、室町期のような太さである。向拝には虹梁がない。			○	○	
明神(御影) 昭和９年	木造　一間社流造銅板葺 折れ屋根	工事中	「文政５年(1822)大工上ヤ□彦左衛門藤原豊勝」の棟札＊１			△	△	
明神(御影) 昭和17年 両部(木造)	木造　一間社流造銅板葺	木造　三間入母屋桟瓦葺 向拝：入母屋桟瓦葺	「宝暦７年(1757年)棟梁大工服部元左衛門光里」の棟札＊１　とあるが江戸末期のものと考えられる 鞘堂：平成６年　拝殿：平成５年		○	△	○	
明神(御影) 平成７年	木造　二間社流造銅板葺	木造　五間切妻桟瓦葺 向拝：大唐破風桟瓦葺	所蔵の600巻の大般若経は、県指定文化財			△	○	○
明神(御影) 昭和３年 両部(木造)	木造　三間社流造銅板葺	木造　三間入母屋桟瓦葺 向拝：入母屋桟瓦葺	拝殿：昭和54年				○	
			舞台の存在確認のみ			○	−	
台輪(木造)	木造　一間社流造銅板葺 彩色	木造　三間入母屋銅板葺 向拝：入母屋銅板葺	江戸末期のものと考えられる		○	△	○	○
	木造　一間社流造銅板葺		昭和45年現社殿に改築＊１ 舞台の存在確認のみ			○	○	
明神(御影) 昭和37年	木造　一間社流造銅板葺	木造　三間入母屋桟瓦葺 向拝：入母屋桟瓦葺	江戸末期のものと考えられる	○	○	△	○	
明神(御影) 昭和38年	木造　一間社流造銅板葺	木造　三間入母屋桟瓦葺 向拝：入母屋桟瓦葺	大正14年現地に遷座、昭和34年かづらき氏神地蔵神社を合祀 拝殿：平成９年			△	○	
明神(御影) 昭和37年	木造　一間社流造銅板葺 折れ屋根	木造　三間切妻桟瓦葺 向拝：なし	江戸末期のものと考えられる		○		○	
明神(御影) 昭和43年	木造　一間社流造銅板葺	木造　三間切妻桟瓦葺 向拝：大唐破風銅板葺	本殿彫刻は巧みな細工で、太龍寺の塔を建てた大工＊１ 明治27年再建の棟札＊２ 基壇に天保７年の銘	○	○	△	○	
明神(御影) 昭和43年	木造　一間社流造銅板葺	木造　三間切妻桟瓦葺 向拝：入母屋桟瓦葺	明治43年焼失、大正２年72社を合併し拝殿と共に再建 阿井の西谷五平、石本寿之吉の請負＊１ 彫刻は、青年山家雪齋＊１			△	彫	○
明神(御影) 昭和39年	木造　一間社流造銅板葺	木造　三間切妻桟瓦葺 向拝：入母屋桟瓦葺	本殿：昭和39年9月小松島豊栖貢 拝殿：昭和29年日和佐岩谷唯勝 参集殿：昭和62年龍田博之			△	無	
明神(御影) 大正15年	木造　一間社流造銅板葺	木造　三間入母屋桟瓦葺 向拝：大唐破風銅板葺	本殿：棟札享保４年大工百合村久□□　小工仁平＊２とあるが江戸末期のものと考えられる 拝殿：明治10年建立＊２	○		△	○	○
両部(木造) 大正５年	木造　一間社流造銅板葺	木造　三間入母屋桟瓦葺 向拝：大唐破風桟瓦葺	本殿：昭和８年銅板に葺替 拝殿：大正12年新築＊１		○	△	○	○
明神　(御影) 昭和58年５月	木造　一間社流造銅板葺	なし	昭和41年春造営＊１ 昭和22年会堂を建てる 木造　平屋トタン葺き＊１				○	
	木造　小社殿	なし					無	
	木造　一間社流造銅板葺	木造	本殿：昭和16年大工梁の上岩崎武敏 拝殿：昭和47年大工龍田博之			△	○	
	木造　小社殿 一間社入母屋造銅板葺	なし	通夜堂(６坪)あり				無	

C：農村舞台（有○　集会所に改築△）　　D：本殿脇障子（有○　彫刻有は彫、△痕跡）　　E：本殿虹梁の錫杖彫り

表２　寺院建築・お堂建築　調査一覧表

寺院名	所在地	開基	宗派	山号	本尊
A　正光寺	平野	正中元年（1324）と伝わる	高野山真言宗	向栄山	地蔵菩薩
B　妙法寺	谷内	不詳　真琱（宝暦４年（1754）寂）により現在地に移す	真言宗単立寺院（古来太龍寺の末寺）	梅野山	阿弥陀如来
C　万福寺	延野	文治２年（1186） 永禄４年（1561）現在地に移る	高野山真言宗	円明山	薬師如来
D　滝寺	鮎川	不詳	高野山真言宗（万福寺兼務）	延命山	地蔵菩薩
E　大聖寺	朝生字川西	寛永元年（1624）	高野山真言宗	恵日山不動院	地蔵菩薩
F　延命寺	横石字上傍示85	桂国寺第18世石橋理門和尚（宝永６年寂1709年）の開基 宝暦年間に現地へ移る	曹洞宗永平寺末寺	吉量山	十一面観音菩薩 釈迦如来座像
G　法輪寺	雄	不明	高野山真言宗	松尾山	薬師如来
a　地蔵庵（百嘉堂）	榎谷	不明			地蔵菩薩　大師神変大菩薩
b　愛染庵	馬路　八幡神社境内				地蔵菩薩 愛染明王
c　徳善院	花瀬字花瀬	慶長年間			聖観音 弘法大師像
d　慶光庵	朴野字西ノ岡18	不詳　永禄年間（1558～1570）には存在、中山寺と称する			地蔵菩薩 聖観世音
e　松寿庵	横石字大板	本尊　延享２年（1745）			地蔵菩薩 観世音菩薩 弘法大師像
f　薬師庵	鉢		熊野山八坂寺		阿弥陀如来
g　大師堂	向原字向原117	不明			弘法大師 葛羅切観音

＊１：町誌　　＊２日野谷村の歴史

図８　ｆ薬師庵全景

図９　薬師庵棟札（表）

図10　薬師庵棟札（裏）

平成12年８月末日現在

建物名　屋根形式　屋根材　建築年代	建物名　屋根形式　屋根材　建築年代	特記事項
方丈 木造切妻平入銅板葺 向拝：縋破風 平成10年	観音堂 入母屋銅板葺 向拝：一間縋破風 元禄10年（1697） 仁王門：三間一戸鐘楼門 入母屋本瓦葺 宝永３年（1706）	
方丈 木造寄棟平入裳腰付桟瓦葺き 四間×三.五間 庫裡 木造切妻平入２階建桟瓦葺き	土蔵 木造切妻妻入桟瓦葺き（置屋根） 納屋 木造	妙学院と称する山伏寺院から現在地に移る　民家風
方丈 木造寄棟平入茅葺鉄板巻 下屋本瓦葺（四方蓋） 庫裡 木造 入母屋本瓦葺	地蔵堂 宝形造本瓦葺 向拝一間縋破風 平成 組物等に古材使用 鐘楼 四足鐘台 入母屋造本瓦葺 宝暦11年（1761）	廃寺玉祥寺を合併
本堂 木造切妻桟瓦葺	方丈、鐘楼、庫裡、納屋があったが檀家が無く、農地解放等により維持困難となり、昭和35年現在の小堂に改築。	仁宇谷を治めた蜂須賀家家臣山田織部公の菩提寺
本堂 木造宝形桟瓦葺 三間×三間 昭和９年 擬洋風の様式	庫裡 木造 切妻平入桟瓦葺き	文化８年大聖寺と改称
本堂 木造入母屋平入り裳腰付桟瓦葺 五間×三間 庫裡 木造切妻平入りＳ型スレート葺き 昭和53年再建 棟梁龍田博之＊２	千体地蔵堂 木造宝形銅板葺 向拝なし 二間×二間 組物：平三斗 彩色 寛延元年（1748）現地に遷座。 最近、内法から下部の外壁を改修。	無住 阿南市新野町円福寺兼務
方丈 木造切妻平入桟瓦葺 向拝縋破風 平成12年 施工 岩崎工務店		弘化元年再興
木造 片入母屋鉄板葺 三間×二間 柱頭：大斗肘木	棟札：元文４年（1739）４月 大工平野村宮内藤原若太夫同賀蔵□小工作平各日役寄進者之者也	大斗寸法に特徴
木造 片入母屋桟瓦葺 三間×二間 昭和40年		
木造 切妻桟瓦葺（妻入り） 二間×二間 組物：平三斗	壁に墨書：明治13年２月 大工小濱村佐野多賀蔵 大正７年茅葺きから瓦葺き（大工日浦吉川晴二郎）＊２	
木造 宝形茅葺鉄板巻　二間×二間 向拝：縋破風桟瓦葺 組物：平三斗		明治９年再建＊１
木造 片入母屋桟瓦葺 二間×二間 昭和５年茅葺屋根を桟瓦葺にして坂木義一が全改築＊１		
木造 宝形銅板葺 三間×二間　２方切目縁 組物：平三斗	棟札１：文化６年（1809年） 大工 雄村長兵衛 棟札２：昭和29年４月 修復 大工 当村森美雄 屋根職 延野小森廣継 棟札３：昭和57年 屋根銅板葺替 大工 岡久雄・屋根職 三木賢一	
木造 片入母屋桟瓦葺		

図11　ａ地蔵堂棟札（表）

図12　地蔵堂棟札（裏）

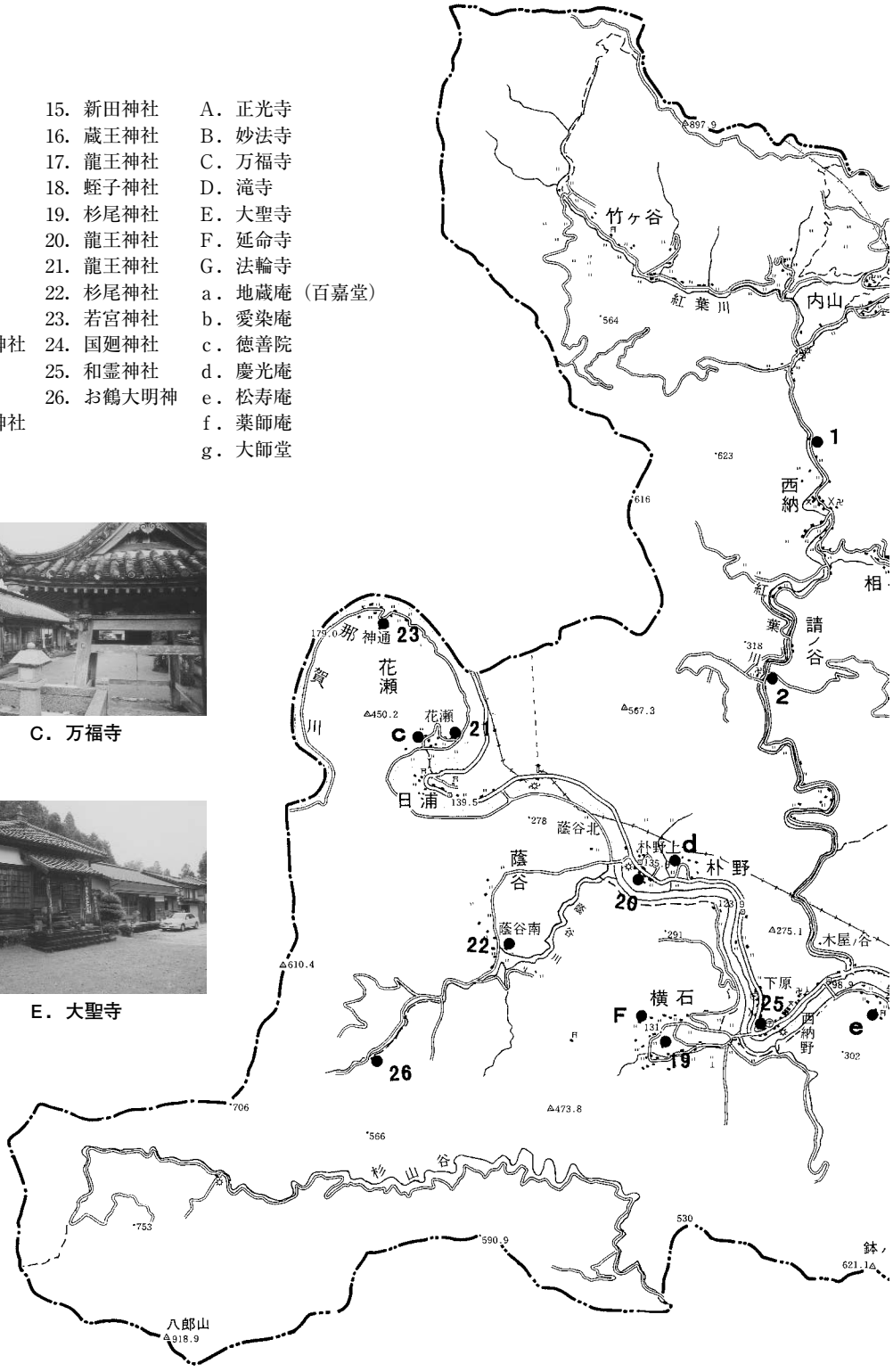
図13　相生町の社寺建築案内図

1．八面神社
2．八幡神社
3．白人神社
4．辺川神社
5．鹿島神社
6．八幡神社
7．八幡神社
8．八幡神社
9．八幡神社
10．大宮八幡神社
11．王子神社
12．八坂神社
13．和田都美神社
14．吉野神社
15．新田神社
16．蔵王神社
17．龍王神社
18．蛭子神社
19．杉尾神社
20．龍王神社
21．龍王神社
22．杉尾神社
23．若宮神社
24．国廻神社
25．和霊神社
26．お鶴大明神

A．正光寺
B．妙法寺
C．万福寺
D．滝寺
E．大聖寺
F．延命寺
G．法輪寺
a．地蔵庵（百嘉堂）
b．愛染庵
c．徳善院
d．慶光庵
e．松寿庵
f．薬師庵
g．大師堂

C．万福寺

E．大聖寺

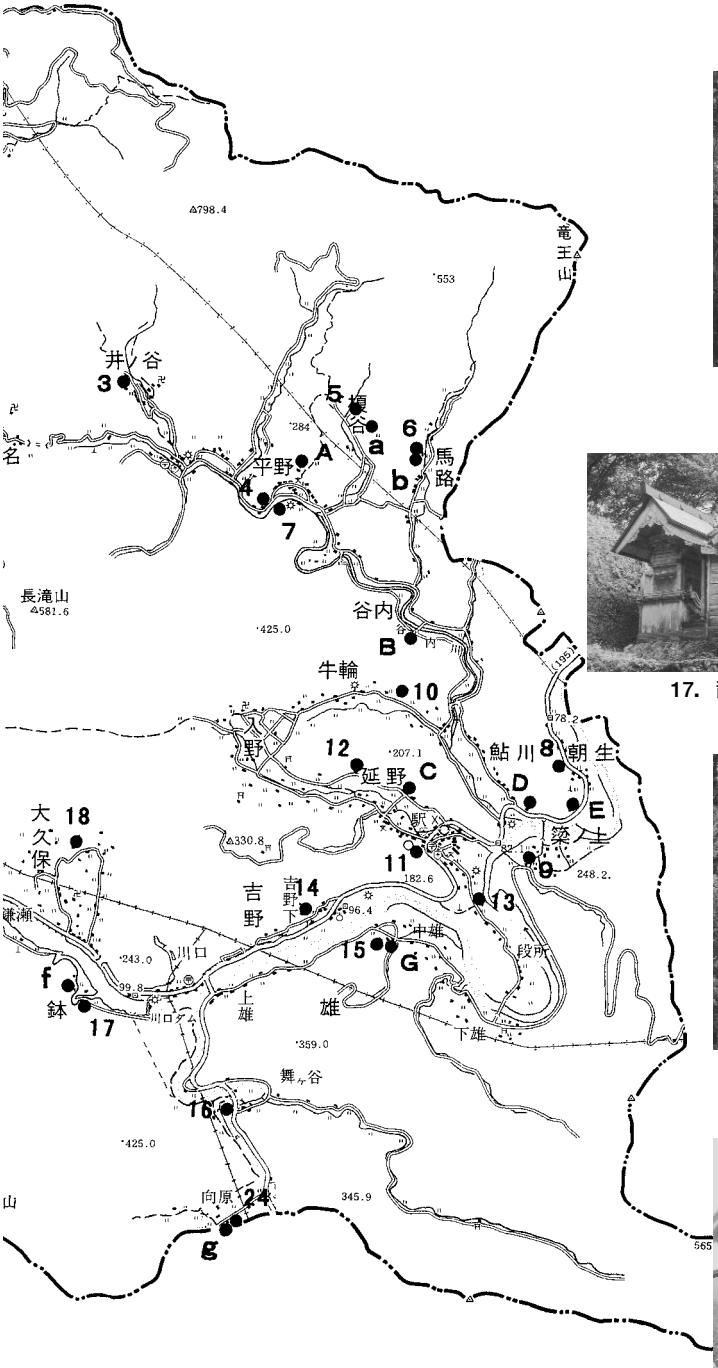


2．八幡神社

9．八幡神社

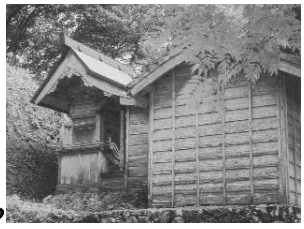
4．辺川神社

10．大宮八幡神社



13．和田都美神社

11．王子神社



17．龍王神社

18．蛭子神社

15．新田神社

21．龍王神社

c．徳善院

e．松寿庵

3．相生町の各社寺建築

1）辺川神社（表１－４）　鎮座地－平野字岡田１

［本殿］木造　一間社流造　銅板葺

身舎－円柱（粽）　切目長押　内法長押　頭貫木鼻（拳）　台輪　三手先

彫刻支輪　中備彫刻

妻飾・二重虹梁　二手先　彫刻支輪　中備彫刻　二軒繁垂木

向拝－角柱　虹梁型頭貫木鼻（龍）　繋海老虹梁　出三斗

三方切目縁　刎高欄　脇障子　昇擬宝珠高欄　木階五級（木口）　浜床

千木－垂直切　竪魚木－３本　（図14、15）

この社は旧村社で、中央北部を流れる谷内川沿い、平野に鎮座する。創建は不詳、現在の本殿は棟札より文政11年（1828年）である。本殿は一間社流造で、身舎は円柱を切目長押と内法長押で固め、柱頭部には頭貫（拳鼻）と木鼻付台輪が載り三手先となり、彫りの深い中備彫刻や彫刻支輪を詰める。妻飾（図16）は二重虹梁で上部は二手先となる。那賀川流域において特徴的な四方八方に手先の出る組物を持つ。三手先の通し肘木は四本の柱を繋ぎ、彫刻支輪を填め、斗が載る。向拝及び妻飾りに見られる中備彫刻は、岩を角張った荒々しい氷状の彫刻が施されている。組物、彫刻ともに見事である。

向拝は三方に切目縁を回し刎高欄が脇障子に取り付く。浜床を張り木階五級の昇擬宝珠高欄が付く。

なお、境内には農村舞台が現存している。

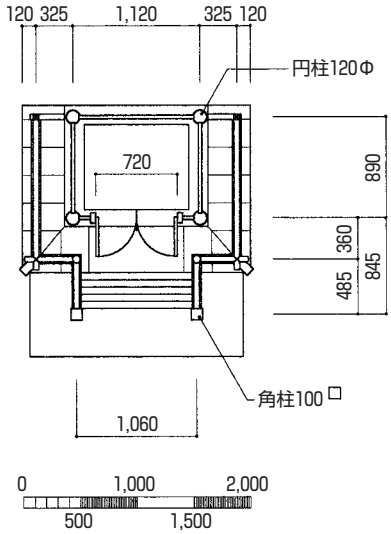


図14　本殿平面図

図15　本殿全景

図16　身舎妻飾

2）八幡神社（表１－６）　鎮座地－馬路字桑中78

［本殿］木造　一間社流造　銅板葺

身舎－円柱（粽柱）　切目長押　内法長押　頭貫木鼻（拳）　台輪

大斗肘木　二重虹梁　大瓶束笈型付　中備彫刻　板軒

向拝－角柱　虹梁型頭貫木鼻（象）　繋海老虹梁　脇障子　刎高欄

三方切目縁　木階五級（木口）

千木－垂直切　堅魚木－３本　（図17、18、20）

この社は旧村社で馬路の八幡森に鎮座する。創立年代は不詳であるが、基壇に元（次）元年子の銘が彫り込まれていて（図19）、これが幕末の元治元年であれば1864年ということになる。

身舎の円柱は上下が円弧状にすぼまった粽柱となっていて、それを切目長押と内法長押で固め、柱頭部には頭貫（拳）と台輪が載る。特徴としては軒が板軒で、壁が柱の芯よりも内側に入っていて、柱を強調する形となっている。

向拝の角柱には几帳面がなく、柱頭部は虹梁型頭貫木鼻（象）と155㎜角の大きめの大斗が載り、身舎とは海老虹梁でつないでいる。

縁は三方切目縁で、背面に脇障子を立て、木階は木口階段の五級で浜床を張る。

また、拝殿は平成元年10月大工棟梁中元英利により建立されたものである。

図17　本殿側面

図18　本殿妻飾

図19　基壇の彫り込み

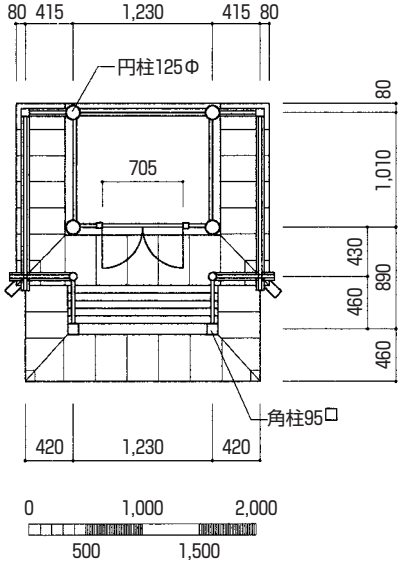


図20　本殿平面図

3）八幡神社（表１－８）　鎮座地－朝生字川西235

［本殿］木造　一間社流造　銅板葺（折（お）れ屋根）

身舎－円柱　切目長押　内法長押　台輪　頭貫木鼻（拳）　出三斗　中備蟇股（かえるまた）

妻飾・虹梁　中備蟇股　彫刻支輪　板軒

向拝－角柱　虹梁型頭貫木鼻（象）　連三斗（つれみつど）　繋海老虹梁　三方切目縁

工事のため取り外し（刎高欄　脇障子　昇擬宝珠高欄）

脇障子　木階五級（木口）　浜床

千木　竪魚木－なし　　（図21、22、23）

この社は旧村社で、町の東部鷲敷町との境にある朝生に鎮座する。創立年月日は不明、現在の本殿は町誌に「文政５年（1822年）大工上ヤ□彦左右衛門藤原豊勝」の棟札とある。

本殿は小規模な一間社流造（折れ屋根）で、屋根は銅板葺きである。拝殿及び幣殿（へいでん）は現在建て替え工事をしており、本殿においても、三方に切目縁と身舎背面の片側に脇障子（羽目板（はめいた）と上部に輪（わ）の透（す）かし彫刻）を確認したものの、刎高欄、擬宝珠高欄は一時取り外されていた。身舎は円柱で切目長押と内法長押で補強し、柱頭部は頭貫と絵様（えよう）の肘木付き出三斗で板軒を支える。妻飾（図24）は柱間に松（まつ）模様の蟇股を填め通し肘木と虹梁を載せる。さらに彫刻支輪を詰め虹梁の上に龍の彫刻が載る。海老虹梁は身舎の台輪の上部から向拝の丸桁（がぎょう）につなぐ。向拝の柱は几帳面の角柱で頭部には虹梁型頭貫（象鼻）と絵様肘木付き連三斗を載せ、向拝の軒を支える。木階は木口階段の五級で、昇高欄が付き、その下部には浜床を張るが現在は外されている。

図21　本殿全景

図22　本殿正面

図23　向拝組物

図24　身舎妻飾

4）正光寺（表２－Ａ）　所在地－平野

山号－向栄山　宗派－真言宗・高野山派

［観音堂］木造　間口三間　奥行二間　入母屋造　銅板葺　向拝一間縋破風

＜元禄10年（1697）＞

主屋－角柱　切目長押　内法長押　頭貫木鼻　台輪木鼻　出三斗絵様肘木

二軒角疎垂木　三方切目縁

向拝－角柱　虹梁型頭貫木鼻（錫杖彫）連三斗　中備蟇股　手挟

［仁王門］木造　三間一戸鐘楼門　入母屋造　本瓦葺　＜宝永３年（1706）＞

下層－円柱　頭貫　台輪　中央間彫刻飛貫　縁腰組二手先　中央間中備彫刻

上層－円柱　頭貫　台輪　二手先（尾垂木付）　彫刻支輪　火灯窓　連子窓

二軒繁垂木　四方切目縁　擬宝珠高欄

（図25、26、27、28、29）

正光寺は正中元年（1324）開基と伝えられる古刹である。方丈は平成10年に改築されたが、観音堂と仁王門は江戸中期の建立で、町内に残る堂宇の中では最古のものである。

観音堂は方丈の右奥にあり、方丈とは火灯窓を備えた回廊で繋がれている。寺伝では元禄10年（1697）の建立で、仁宇谷五十八カ村の与頭庄屋・柏木氏の寄進といわれている。様式は縋破風の向拝を持つ入母屋造で、主屋組物は出三斗、軒は二軒疎垂木である。外観上は近年施された朱色の塗装が目を引くが、組物間に蟇股や彫刻などの中備装飾は一切なく、どちらかといえば質素な造りである。それが堂内では一変し、内法長押から上部はすべて彩色が施され、手の込んだ優雅な造りとなっている。格天井には草花の絵が、また板欄間には天女などの絵が描かれ、組物は勿論のこと、長押や台輪に至るまで良質な絵様で埋め尽くされている。色彩をふんだんに使って描かれたこれらの絵様は建築当時のものであり、貴重である。内部の角柱は大面取りで、その上部に台輪を回し、出組の組物で格天井を受けている。

仁王門は鐘楼を兼ねた入母屋造本瓦葺の三間一戸楼門で、両脇に寄木造の仁王を安置する。今回、棟札は未確認であるが、建立は宝永３年（1706）で大工は覚エ門といわれている。縁の腰組は連斗を埋め尽くした二手先で、先端部は斗を使用せず、挿し肘木で直接縁葛を受けている。中央柱間には正背面とも町内でよく見かけた角張った彫りの中備彫刻が施されている。上層の壁面は正面中央間は火灯窓、両脇及び側面は連子窓とし、和様と禅宗様を混在させている。上層の組物は尾垂木付の二手先で、一手先と二手先の間には波模様の彫刻支輪を備える。軒は和様の二軒繁の配付垂木である。楼門としてはやや小振りであるが、多用した組物や彫りの深い彫刻により優美さを漂わせている。

県下に残る寺院建築の中で、江戸中期まで遡るものは少なく、優雅に描かれた絵様を残

す観音堂と小振りながらも本格的な造りの仁王門は、維持管理状態もよく、町内を代表する貴重な建造物となっている。

図25　観音堂全景

図26　観音堂内部
内法長押より上部は全て彩色が施されている

図27　観音堂内部　厨子上部の中備蟇股

図28　仁王門全景

図29　仁王門　縁下の中備彫刻

5）地蔵庵（百嘉堂）（表２－ａ）　所在地－榎谷

棟札　元文４年（1739）

間口三間　奥行二間　妻入入母屋造　背面切妻　鉄板葺　正面切目縁　切目長押
内法長押　大斗肘木　一軒疎垂木　　（図５、11、12）

正面入母屋、背面を簡略化して切妻にする、同町や那賀川下流域に多く見られる工法である。間口三間・奥行二間の、向拝を持たない小規模な堂である。本来は、宝形屋根であったが、屋根の修繕時に現状に変更したと思える。この堂は二つの特徴があって、一つは、正面中央の柱間を脇間より広くとるのが普通であるが、ここでは同寸間口としている。向拝がないのと正面中央に特徴がなく、正面性を出すために、屋根を片入母屋にしているのである。もう一つは、柱頭部の組物で、頭貫や台輪を設けず、柱頭にいきなり大斗と肘木を載せて、丸桁を受けていることである。柱や柱頭部の組物は当初材であるが、切目縁と、屋根部は丸桁から上部はすべてが、取り替えられている。内部は、正面背部に仏間を配し、厨子を置くなど内部の空間は、他地方の堂とかわらない。鴨居と内法長押を回し、柱頭部は外部と同じ大斗肘木で、賑やかさはない。天井は、竿縁天井であるが、当初は不明である。棟札から江戸時代中期の、元文四年（1739）と確認されたが、柱の太さや大斗の形状などからみて、もう少し遡る可能性はある。大工は平野村宮内の藤原若太夫と同賀蔵。

6）薬師庵（表２－ｆ）　所在地－延野字鉢

棟札　文化６年（1809）

間口三間　奥行二間　宝形造　柿葺形銅板葺　二方切目縁（鉄板覆）　切目長押
内法長押　頭貫木鼻（正面籠彫・側面象鼻）　台輪木鼻　連三斗　一軒疎垂木
（図８、９、10）

間口三間、奥行二間の規模で、この地方では標準である。屋根は宝形造の柿葺形銅板葺をした、当町唯一のお堂らしき建物。切目と内法に長押を回し、柱頭部には頭貫と台輪を載せる。ともに木鼻を付けるが、頭貫木鼻の側面が象鼻に対して、正面は籠彫りで飾る。台輪上は平三斗を組み、脇の柱間のみ連斗で埋める。内部は土塗り壁で、正面に仏間を配し、大小の厨子を置く。棟札や額などから、江戸時代後期の文化六年（1809）の建立と確認された。大工は雄村長兵衛。

往時は相当の信者があり、堂内には江戸時代に奉納された、数多くの絵馬が掛かっており、すべてが素人によって描かれたものである。文政十三年（1830）の［猩猩図］や、天保年間（1830－44）の［武者図］［寿老人図］［那須余市図］［神功皇后・武内宿禰図］［毛谷村瓢箪棚場面図］、文久三年（1863）の一谷合戦図などを所蔵している。

4．おわりに

相生町の神社建築は、全体的に大工技術の高いものが多く存在していた。特に辺川神社は価値が高いものといえる。寺院建築では、正光寺観音堂、仁王門の価値が高く、３棟については文化財指定などの適切な保護が望まれる。

また、近年切目縁を修繕したものが多く見られたが、縁板の継ぎ手は突付けで納め雨水を切りやすくするものであるが、修繕されたものは、すべて本実（ほんざね）加工され水が溜まりやすい構造となっていた。これは、縁板が腐りやすく耐久性に問題があり、修繕においても伝統構法を踏襲して欲しいものである。

なお、建立年代については、棟札や参考文献により確認できたものもあるが、確認できないものは、様式で判断した。

参考文献

『相生町誌』相生町役場発行　昭和48年８月27日

『日野谷村の歴史』著者森江勝久　平成７年１月30日発行

『徳島県の近世社寺建築（近世社寺建築緊急調査報告書）』奈良国立文化財研究所編　徳島県教育委員会発行　平成２年３月

『徳島県神社誌』徳島県神社庁発行　昭和56年１月１日

『総合学術調査報告　日和佐町　阿波学会紀要第43号　P193～208』阿波学会・徳島県立図書館 1997

『阿波の農村舞台』阿波のまちなみ研究会発行　平成４年10月20日

『阿波の寺社建築』阿波のまちなみ研究会発行　平成９年３月31日

『阿波の絵馬』徳島県郷土文化会館発行　昭和55年